

港区史編さんだより

～ 区民の皆さんと歩み、歴史を語り継ぐ～

発行：港区総務部総務課区史編さん担当

〒105-8511 港区芝公園 1-5-25/TEL 03-3578-2049/<https://www.city.minato.tokyo.jp/>



今号の表紙

昭和55年(1980)に、芝浦港南支所(芝浦三丁目)が開設されました。この写真は、完成間近の様子です。1階が支所、地下1階・1階には土木事務所、2階は福祉事務所、3階から5階は婦人会館でした。平成26年(2014)にみなとパーク芝浦が竣工し、芝浦港南地区総合支所はそこに移転しました。



目次

- Zoom Up 『港区史』自然編、『図説 港区の歴史』を刊行しました・・・P2
デジタル版『港区史』・・・P2
編さん過程のヒトコマ・・・P3
- Pick Up 史資料調査のヒトコマ・・・P3
港区史刊行記念イベントを行いました・・・P4
編集後記・・・P4

『港区史』自然編・『図説 港区の歴史』を刊行しました



港区史 自然編 (令和2年10月刊行)

A4判 | フルカラー | ソフトカバー | 112ページ

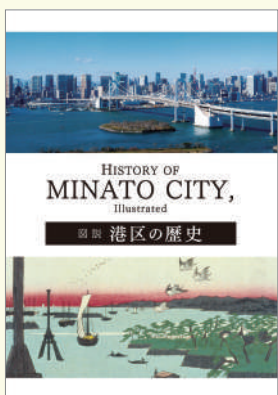
港区内では、ほとんどの区域で、人びとの手が加えられてきたとはいえ、今なお多彩な自然に恵まれています。自然編は、約3万年にわたって人びとの活動の舞台となってきた港区の自然の歴史を知り、学ぶことを目的として編さんしました。



図説 港区の歴史 (令和2年12月刊行)

A4判 | フルカラー | ソフトカバー | 280ページ

すべてのページをカラーとしていることが、図説の最大の魅力です。自然と各時代の特徴的なトピックについて、豊富な写真や図版を用いて、分かりやすく解説しています。また、概要を英文で記載しています。



販売情報

■販売場所 港区役所区政資料室
各地区総合支所(芝を除く)
港区立郷土歴史館

■価格 自然編 3,000円
図説 港区の歴史 5,000円

港区立図書館でご覧いただくこともできます。

デジタル版『港区史』

「デジタル版 港区のあゆみ～港区の歴史を今と未来に伝えるデジタルアーカイブ～」にて公開中！

https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/1310305100/index_minatokushi.html



今回刊行する『港区史』は、インターネットでも公開しています。
どなたでも、どこにいても『港区史』やその関連資料を閲覧することができます。

港区史



Zoom Up 編さん過程のヒトコマ

令和2年度第1回港区史編さん委員会

令和2年10月15日 開催

令和2年10月末に刊行を予定していた「通史編 原始・古代・中世」「通史編 近世」「図説 港区の歴史」の刊行延期が承認されました。また、刊行概要の変更、区史の価格やジャケットデザインについて議論しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アクリルパネルの設置、通常の会議とオンライン会議の併用などの対策をとりました。



『港区史』刊行スケジュールのご案内

令和3年(2021)	3月	通史編 原始・古代・中世	／	通史編 近世(上・下)
令和4年(2022)	3月	通史編 近代(上・下)		
令和5年(2023)	3月	通史編 現代(上・中・下)	／	資料編(1・2)

そのほか、港区史編さん推進委員会、監修者会議、近代部会、現代執筆打合せなどを行いました。

.....

Pick Up 史資料調査のヒトコマ

10月5、26、28日に港区立郷土歴史館所蔵の「あざぶほんむらちようかい麻布本村町会資料」の調査と撮影を行いました。麻布本村町は、現在の元麻布一・二丁目、南麻布一～三丁目に存在した町です。東京23区内で江戸末期から明治初期にかけての町会資料が残されている例は大変珍しく、貴重な資料です。今回はこの資料群の中から「おふれふんしつぷつしらべちよう御触紛失物調帳」を紹介します。



■「御触紛失物調帳」明治4～5年(1871～72)頃

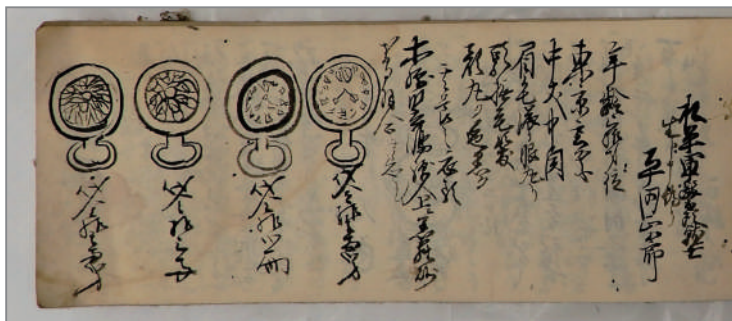


この帳面は、明治4～5年頃の東京市中における紛失物や盗難品について、それらに該当する品があれば届け出るよう、質屋や古道具屋などに命じた触書(ふれがき)を書き留めたものです。衣料品や装飾品、お金、刀や脇差など、書き上げられた品々はいずれも当時の人びとが身に付けたり使用したりしていたものばかり。ラシャ(毛織物の一種)のズボンやチョッキ、こうもり傘、ピストルといった珍しい品もみられます。

お金といっても、慶長小判、安政二分判、古南鐐二朱銀(金の単位をもつ銀貨)など、江戸幕府が発行した貨幣もあれば(小判1枚が金1両、1両=4分=16朱)、太政官十両札や同一両札など、明治政府が発行した紙幣(太政官札)もみられます。東京市中では実にさまざまな種類のお金が通用していたことが知られます。



御触にある紛失物とみられる品はない旨を記し、関連する業者が署名・押印した部分。
印影に「麻布新町」の地名を確認できる。



左の写真は、懐中時計とみられる図が描かれた箇所です。絵の下には「代金拾壹両貳分」(代金11両2分)などあり、懐中時計はこの時代には珍しい高価な品であったことがわかります。こうした舶来品を含む多種多様な品々からは、江戸から東京へと移り変わる時代における、人びとの生活の様子や社会の雰囲気が伝わります。

通史編近世執筆者 高山慶子

港区史刊行記念イベントを行いました

11月28日（土）、港区立伝統文化交流館にて、港区史刊行記念イベントを開催しました。港区史編さんと刊行のご案内および執筆者である河野博先生（東京海洋大学教授）による講演「江戸前の魚と港区～縄文時代から現在まで～」を行いました。



伝統文化交流館



◀港区史編さん委員会 井奥成彦委員長（左）と武井雅昭港区長（右）のビデオメッセージ

■ 講演「江戸前の魚と港区～縄文時代から現在まで～」

港区の海や魚について、縄文時代の貝塚の情報からつい最近の調査で分かったことまで、さまざまな視点で切り取ってお話いただきました。

【講演内容】

1. 江戸前の海の地形
2. 江戸前の海の状態
3. 江戸前（港区）の魚たち
4. 私たちの江戸前の海

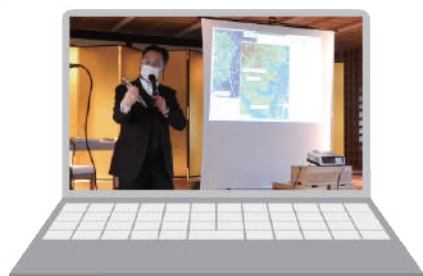


河野 博先生
（東京海洋大学教授）

縄文時代には港区の東半分は海の中であったことや、河口域の第一次汚濁と第二次汚濁について、伊皿子貝塚では焼かれた貝類や破砕貝が多く見つかることから貝類処理場だったとみられること、東京湾で見られる魚の変遷などのお話をさせていただきました。参加された方々は、先生から投げかけられるクイズに答えながら、熱心に聴講していらっしゃいました。



■ オンライン生配信を行いました



新型コロナウイルス感染症対策により、会場参加人数は25名に限定しましたが、講演をより多くの方にご覧いただくために、オンライン生配信も行いました。

参加された方からは、「接触を少なくして参加できる」「天候が悪くても外出せずに参加できる」といったお声をいただきました。

■ 編集後記

平成28年（2016）に新たな編さんが始まった港区史は、全12巻のうち『自然編』『図説 港区の歴史』を刊行することができました。区史編さんにご理解・ご協力くださった皆さまへ改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。ぜひ手に取って、もしくはインターネットでご覧ください。今後も区史の編さんは続きます。どうぞご期待ください。